

「特別の教科 道徳」では、どのような道徳授業が求められているのですか。

★ ポイント

- 1 道徳的価値の多面性に着目させ、多面的・多角的、総合的に考察し、多様な感じ方や考え方に触れさせる道徳の授業が求められています。
- 2 「読む」道徳から「考え、議論する」道徳へ、授業の質的な転換が求められています。例えば、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」や「問題解決的な学習」、「道徳的行為に関する体験的な学習」等、指導のねらいに応じた授業の工夫が求められています。

学習指導要領第3章「特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」には、配慮事項の一つに、道徳科の指導方法について、次のように記述している。

生徒の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、**問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること**。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができるようにすること。

【これまでの道徳の授業の問題点…】 → 道徳的な価値の理解に偏りがちな授業

読み物資料の登場人物の心情理解のみに偏った授業

読み物資料のあらすじの理解を中心とした授業

教師の発問を中心とした徳目を一方的に教え込む授業

【これから求められる道徳の授業の姿】

生徒が主体的に考え、議論する授業へ

答えが一つではない問題を道徳的課題として捉え、生徒が考え、議論する道徳科へ授業の質的な転換を図るために、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習を通じて、自分ならどのように行動・実践するかを考えさせ、自分とは異なる意見と向かい合い議論する中で、道徳的価値について多面的・多角的に学び、その意義について考えさせ、実践へ結び付ける指導が求められているのです。

1 生活実態を通して道徳的諸価値を理解する授業

道徳的価値のよさや大切さについて観念的に理解させるのではなく、具体的な生活実態を通して、心の葛藤の中でよりよく生きる意味を理解させる学習を展開します。

2 生徒が自らに問いかけ内省を深める授業

道徳的価値を自己との関わりで深く捉えさせるために、よりよく生きようとするものの意味を自己との関わりで捉える学習を展開します。

3 多面的、多角的に考え、道徳的価値の自覚が深まる授業

道徳的諸価値の多面性に着目させ、それを手掛かりに、様々な角度から総合的に考察させるような学習を展開します。

4 人間の生き方についての考えを深める授業

道徳的価値について、友達との対話や、これまでの様々な体験や経験、考え方の振り返りを通して、自らの成長を実感し、人間としての生き方について自覚を深めながらこれからの生き方に対して課題や目標を見付けるなど、新たな納得や発見のある学習を展開します。